

〈ケア〉を考える会 (第 119 回)

■日時：2018年7月22日(日) 13:30~17:30

■会場：京都市山科区安朱中溝町3-2
山科駅より東 徒歩3~4分の民家
(山添 宅)(安朱保育園 東隣)

■当日の大まかな予定

13:00 ⇒ 有志集合…会場準備等
13:30~ ⇒ 学びの会/読書対話
15:30頃~ ⇒ 懇親会(笑いヨガ/音楽演奏も)
17:00~17:30 ⇒ 片付け、終了
(その後で、名残惜しコーヒータイム?)

■内容

(1) 読書対話

「ボーヴォワールの『老い』を読む」

講師：浜渦辰二さん(大阪大学「ケアの臨床哲学」研究会)

浜渦さん……「ボーヴォワールの『老い』、分厚いし(和訳で上下巻)、
沢山の引用がありますし、少し古いし、1人で読むのは大変です。私の
話を聞いただけで、この本を読んだ気分になれる……」!?

(2) 懇親会……食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

★懇親会参加者は実費(1000円程度)ご負担願います。

★申し込み・問い合わせ⇒ 林まで：michi-care@outlook.jp 090-5366-1497

★どなたでも参加できます(初参加歓迎)。先着20名程度

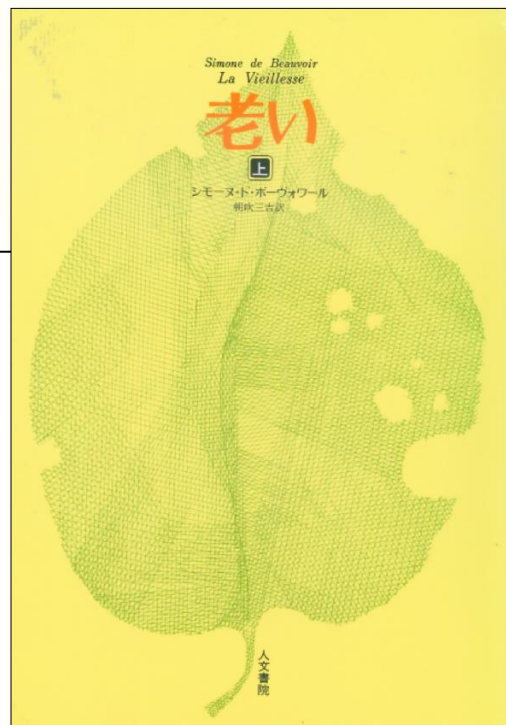
シモーヌ・ド・ボーヴォワールは、フランスの作家、哲学者。
サルトルの事実上の妻。サルトルの実存主義に加担するとともに、
フェミニズムの立場から女性の解放を求めて闘った。
(1908~1986) (「ウィキペディア」より)

ボーヴォワールの『老い(上・下)』

▼老いとは何か。老いは不意に我々を捉える。
何人もこの人生の失墜をまぬがれることはできない。
老いという人生の最後の時期に我々はいかなる者となるのか?

この人間存在の真の意味を示す老いの
生物学的、歴史的、哲学的、社会的、その他
あらゆる角度からの、徹底的考察!!
畢生の大作『第二の性』と双璧をなす問題の書

▼老いを自己のうちに発見しながら、我々は
老いることを拒否し、残された短い未来を予知する。
絶望、空虚、無為、貧困、
この人生の最後の時期を我々はいかに生きるのか?
老いという呪縛に意識と行動をもって反応する人間。
充溢した老いを生きるためには、若い年代に
すでにその準備がなされていなければならない。
(人文書院/本書の内容説明より)



おたがいの言葉を手がかりに考える
時間をもつこと、確かめながらゆっく
りと考える時間を共にし、分け合う。
「考え」でなく、「考え方」をお互い共
有してゆく。
対話には結論はありません。
プロセスをゆたかにできなくては。
(長田弘『なつかしい時間』P.191)

「ケア」を考える会 ホームページ
<http://care-kyoto.jimdo.com/>

「ケア」を考える会-岡山
<http://okayama-care.jimdo.com/>